



専門家による特別講義

怪我から生徒を守る 2020 版

高校生に「マウスガードの装着」の意味を認知させることは、容易なことではありません。校内での事前指導講習で予め「その必要性」を感じとり、外傷防止という目的意識を育ませていきます。野球部1年生を対象に明海大学学長の職にある安井利一先生に特別講義をいただきました。「歯と口は大切な臓器である」と言う、引き込まれるような話の中で、他競技でもラグビー選手の必需品になっていることは、生徒たちにとってとても関心を抱くことに繋がっています。

専門家による特別講義



明海大学学長 安井利一先生 2020.09.02

生徒たちは口の中に入れる違和感を払拭しながら「その重要性」を理解していきます。怪我で選手生命を絶たれる選手も多いことから、学校での安全教育は必須と考えます。「首から上の怪我」は、命取りにもなりかねません。日頃からの意識的な習慣が生徒の意識を高めていきます。



特別講義の後は、市販タイプのマウスガードを作成し、実際に装着、生徒たちは「馴染むこと」からはじめ、明海大学歯学部の松本准教授から指導をうけていきます。

スポーツ外傷防止教育普及

◆学校安全教育調査研究事業について

趣旨

我が国の児童生徒等の歯・口の健康づくりの取り組みは、近年、歯周病や咀嚼・摂食にかかわる口腔機能の未発達、歯・口の外傷防止が中心となっている。

とりわけ、スポーツ基本計画に位置付けられたスポーツ医学との協働を進める重要性や2020東京オリンピック・パラリンピックの開催が迫る中で、学校等でのスポーツ活動における、歯・口の外傷防止教育が重要な課題となってきた。

したがって日本学校歯科医学会では関係機関・団体等と連携し、これまでの「歯・口の健康づくり」を支える重要な基盤として、野球を中心とした学校のスポーツ活動におけるは歯・口の外傷防止教育の普及推進のための実践的な取り組みを進める。

日本学校歯科協会



校内では、高間副校長が、事前の安全指導。

カスタムタイプの マウスガード完成!!

勉強会を経て、各自のマウスガードが完成した。透明色から昨年度は「白色」、装着の確認が容易くできる。自動車のシートベルト同様、装着時の影響、装着していない時の影響は格段に大きく、永久歯を自らの防衛で守ることにつながる。「自己管理ができる選手は技術の成長も著しい」と言われている。その裏づけは「意識改革」。周囲が環境を整え、プレーする生徒たちが実際に正しい装着方法で使用する。

日本学校歯科医会・日本高等学校野球連盟が事業テーマとして取り組む「外傷事故防止」、全国では二校がモデル校として認定、先駆けた安全教育を実践している。

